

## 「電気が築く豊かな未来」

横手清陵学院高等学校 2年 高岡 優希

我が家では、家の屋根にソーラーパネルを設置し、太陽光発電を実施している。電気代の削減とエコのためだ。また、同時に発電状況が表示されるモニターも設置されている。ふと気になって発電状況を探ってみると、意外なことが判明した。かんかん照りの気温が高い時期よりもある程度涼しい時期のほうが発電量は多いのだ。どうやら気温が高すぎると日光が強くても発電効率が悪くなるようであった。これを知った時、何か今までの喜びが虚しく思えてきたのと同時に、今までの発電状況を細かく記録し、分かりやすく表示できた情報システムに敬意を感じた。

省エネ、クリーンエネルギーが囁かれているが、それが本当に有効な手段なのか再考するべきだ。今回の私が経験した例以外にも、LEDの省エネ性能についてが挙げられる。よく消費電力が劇的に下がるということが言われるがそれは白熱灯と比べてみた場合での話だ。蛍光灯と比べた際は確かに省エネではあるがそれほどでもないといわれる。だからといってLEDはエコではないとは言えない。むしろこれからの照明の担い手であるだろう。問題はそこではない。ちゃんとした情報システムもなく、データも取らぬまま世論に流され省エネだといって実行するのは少々危険であると感じたのだ。クリーンエネルギーの運用についても、そもそも自然の力を用いている以上、絶対はあり得ない。そんなエネルギーをデータを参考にせず運用するのは大変なことだと思う。だからクリーンエネルギーの運用の際に確立された情報システムで、生産されたエネルギーを記録しそれによってエネルギーが無駄なく管理されることが「電気が築く豊かな未来」において必要なことだろう。